生徒や教師が考える理想の教師像についての研究

上田　俊佑（生涯スポーツ学科　学校スポーツコース）
指導教員　仲宗根　森敦

キーワード：生徒，教師，理想，ギャップ

１．緒言

筆者は，本年度から「総合育成支援員」という非常勤講師として現場に出ている．そのため，筆者は，生徒たちと接する機会が増えた．そこで，生徒や教師が理想としている教師とはどのような教師なのか考えるようになった．本研究では，生徒と教師が考える理想の教師を明らかにすることを目的とする．

２．研究方法

本研究の対象を中学校の各学年１つのクラスにアンケートをとる．さらに，現場に出ている教員２名にはインタビューをする．それらの結果を用いて，「生徒や教師が考える理想の教師像」について検討する．

３．結果と考察

（１）生徒へのアンケート

生徒へのアンケート結果では，③どの生徒にも平等に接する先生と⑦気軽に話しかけやすい先生と⑧わかりやすい授業をする先生が上位にあがってきた．さらに，④相手を理解し，よい人間関係を築く能力と⑤正しい判断で考えを持ち，行動する能力が上位にあがってきた．③では，１人の生徒に対する１つの行動で，その教師の見方が 180 度変わってしまう．つまり，生徒たちの目線が厳しいので上位にあがってきていると考えられる．⑦では，話すことによって，生徒の小さな変化に気づくかもしれない．そこで，問題を未然に防ぐことができる可能性がある．生徒が気軽に話しかけやすい先生というは，重要な役割を担っていると考えられる．⑧では，教師といえば授業をするというイメージがある．生徒と教師は，授業での関わりが一番多いと考えられ，そのイメージのままで，わかりやすい授業というのがあがってきたと考えられる．④では，思春期である中学生は，他人の考えることや言うことを素直に聞けず，一方で，友達を理解しなければならないことはわかっている．よって，一番の票を集めたと考えられる．⑤では，生徒たちは，正しい判断をすることができるが，行動に移すことが出来ないということを，生徒たちがわかっている．そのため上位にあがってくると考えられる．

（２）教師へのインタビュー

アンケートでは，わかりやすい授業をする先生が一番大事だと結果が出た．それに関してインタビューにて話しを聞くと，わかりやすい授業をすることは，かなり難しい．これまでも試行錯誤してきたし，これからも試行錯誤していきたいと話していた．次に，どの生徒にも平等に接する先生と結果が出た．それに関してインタビューにて話しを聞くと，これは，意識しても簡単にできることではない．授業以外で話すことは難しいので，授業中にいろんな生徒と雑談をいれながら話すことを意識していると話していた．最後に，興味・関心を持たせやる気を出させてくれる先生だと結果が出た．この質問項目での興味・関心は，授業である．それに関してインタビューにて話しを聞くと，授業中にずっと静かにするのはしんどい．生徒が興味を持つような話しをして，集中しやすい環境を作ることが大切だと話していた．また，自分を理解し，よさを発揮する能力だと結果が出た．それに関してインタビューにて話しを聞くと，個性というのを大事にしなければならない．これから先，自分を見失うことがあるかもしれないが，義務教育の中で学んだことを思い出してほしいと話していた．

４．まとめ

本研究では，生徒や教師が考える理想の教師像を明らかにすることを目的とした．そこから，以下のことが明らかになった．

・どの生徒にも平等に接する先生
・気軽に話しかけやすい先生
・わかりやすい授業をする先生
・相手を理解し，よい人間関係を築く能力
・正しい判断で考えを持ち，行動する能力

また，教師も生徒と同じような教師を理想としていることが明らかになった．しかし，教師のインタビューでは，高い理想を描き，毎日を過ごしており．教師自身，生徒の将来のことを考えて，教師は，何回も同じことを毎日のように言っていることがわかった．つまり，生徒は，今を考えている．教員は，将来を考えて理想の教師像と勝負しているということがわかった．

引用・参考文献

池上彰（2013）『先生！』．岩波書店：東京
池田修（2007）『教師になるということ』．学陽書房：東京